

2009 年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワミーティング基金」

## 報告書： 外交政策ワークショップ報告大会

政策・メディア研究科 修士課程 2 年 川口貴久 (takahisa@sfc.keio.ac.jp)

### 1. はじめに

創造実践科目「外交政策ワークショップ」はワークショップ形式を中心に、学生が自ら問題を発見し、政治学・経済学・社会学・歴史学といったディシプリンを超えて解決策を提示する。こうした問題発見・解決ワークショップの集大成として毎年、報告大会を開催している。

### 2. 目的

本活動の目的は、日本の外交政策と国際関係に関するテーマで、新入生が共同で問題提起・解決策を報告・討議すること(及びその事前準備を含む)によって、SFC における研究生活への端緒となることである。

### 3. 活動内容

本報告大会は、問題発見・解決ワークショップの集大成として毎年、開催している。本年は14のグループが報告を行い、外交・安全保障、経済協力・貿易といった分野に関わる実務家・研究者の方々からコメントを頂戴する。最終的には、論理性、独自性、チームワークなどの観点から、学生らの報告を評価する。大会のジャッジとして、野本啓介氏(北星学園大学経済学部准教授)、橋詰邦弘氏(共同通信社編集局政治部部長)、山田彰氏(外務省国際協力局参事官兼アフリカ審議官組織参事)が参加山本達也氏(名古屋商科大学外国語学部専任講師)に参加頂いた。

### 【大会の様子】



(写真 1：開会式)



(写真 2：学生による報告)

### 4. 活動概要

活動場所：慶應義塾大学 SFC 0 館

活動日時：2009 年 7 月 11 日 (土)

#### 【タイムスケジュール】

10:40	学生入場解禁
10:55	ジャッジ入場
11:00	開会式 (ジャッジ紹介、順番決め)
11:20	報告セッション 1 (5 班分の報告)
13:00	昼食休憩

13:40	報告セッション2 (5班分の報告)
15:20	小休憩
15:35	報告セッション3 (4班分の報告)
16:55	小休憩 (集計作業)
17:20	閉会式 (ジャッジ講評、表彰式)
17:55	報告大会終了
18:15	打ち上げ開始 (@食堂)
19:55	打ち上げ終了予定

	～日本の食糧自給率向上と穀物メジャーとの付き合い方～
12班	常任理事国入りのための外交政策 ～平和構築委員会への2つの政策提言～
13班	日中水政府 ～過去は水に流しましょう～
14班	核兵器廃絶に向けて ～FOR THE PEACE～

## 5. 報告内容

各班の報告テーマは以下の表の通りである。持ち時間は合計20分、内訳は、報告時間が13分、ジャッジによる質疑応答が6分、準備・撤収に1分であった。

	発表テーマ
1班	対インド ODA (政府開発援助)
2班	東南アジア移民政策 ～農業学校を作ろう～
3班	拉致問題解決に向けて ～過去から未来への日朝対話～
4班	BRICs とアフリカをつなぐ ～Rewrite the world～
5班	日本とイラン ～核と石油の狭間で～
6班	IWC と日本 ～捕鯨問題解決のために～
7班	COP15に関する日本の提言 ～京都議定書についての新たな枠組み～
8班	日中韓経済共同体作り
9班	新エネルギー技術実践 Project
10班	日米関係を軸にした温暖化対策による地位向上
11班	対米食糧獲得戦略

## 6. 報告大会の結果と成果

本年の報告大会では、13班が大賞に輝いた。その他、部門別に、実現可能性賞、チームワーク賞、論理性賞などが決定された。



(写真3: ジャッジの方々によるコメント)

本報告大会により、学生が自ら問題を発見し、政治学・経済学・社会学・歴史学といったディシプリンを超えて解決策を提示するという授業の目的が達成された。

## 7. 謝辞

本活動を行うにあたり、ご協力を頂いたジャッジの方々、準備にご協力頂いた皆様をはじめ、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」のご支援に改めて感謝致します。